



発行 福島東高等学校同窓会  
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551  
 発行人 尾形幸男 先生  
 題字 三浦賢一 先生  
 編集 福島東高等学校同窓会事務  
 印刷 尾形幸男 妻 印

# 生きてきた力、 生きていく力

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸男



昨年六月、福島東高校創立三〇周年記念式典が開催されました。そして、2011.3.11の東日本大震災。わが母校は、まさに国難の渦中に三十一一年目を踏み出すことになりました。私は七年前、浪江町に住んでいました。請戸漁港からの海の幸、津島からの山の幸、温かて穏やかな優しい方々との出会い

により今の私が存在しています。地域や住民がそこにいることで歴史が生まれ、目には見えない大きな一体感で日々の生活が当たり前のようになり立って来ました。しかし、あの震災で全ての力は分散されただけでなく、原発事故により一つに集まることさえも許してもらえない先行き不透明の状況が続いています。今、多くの人々は「自分には何が出来るのか」を真剣に考えながら生活しています。自らも日々精一杯の生活であるのに、心の片隅では被災者の方々への支援について気にかけているの

です。「当たり前」のありがたさを身をもって感じ、「当たり前」が当たり前にならない「現実」と非現実が交錯し、行き場のない怒りの中で生きているのではないのでしょうか。

被災者の方々の言葉でよく耳にするのが「それでも、生きていかなければならない」、「生き残った我々の使命」というものです。震災から八ヶ月が過ぎ、福島人はあらゆるツールで、前を向こうとしていきます。私の知り合いは、福島第一原子力発電所で働いていましたが、爆発後の四月には復旧作業に戻りました。その理由は「早く家族で浪江に戻りたい。自分が手伝うことで、少しでも早く復旧できればいい。」家族の傍で家族を守るのではなく、家族の為に家族から離れて、危険と隣り合わせで働く彼の決断、そして彼を支える奥様の想いを察し、私は、

何も言つことができませんでした。多くの方々はどん底の中でも、家族、親族、友人、仲間、仕事、趣味、音楽、観光、スポーツ、笑い等を心の支えにして、生きています。

今回の歴史的な大震災は、我々から全てを奪いました。しかし、我々はその時から、感じたこと、学んだこと、伝えなければならぬこと、「絶対」はないこと、優しさは目に見えないこと、涙は枯れないこと、必ず明日は来ることを自然から教わりました。

明日の為に、子どもたちが希望、そして未来を感じられるような雰囲気を作り出すことが今の時代に選ばれ生きている大人の役割なのだと思います。今までの大人たちが時代の中で忘れてかけてきたものを再確認し、次の世代に生きる子どもたちに、しっかりと道筋を立てていくことが、我々の責任なのではないでしょうか。

我が母校でも、少なからず変化はあったと思います。グラウンドは除染作業を行い、授業や部活動にも支障があったでしょう。相双地区からの転入生も多く、来年度は一クラス増えるこ

とになるようです。

後輩には、どのような状況であれ、全てをプラスに変え、前向きに生きて行たくまじさを持ち合わせて欲しい。大人の責任の下で、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせましよう。我々大人の真価が、存在が、優しさが、そして「生きてきた力、生きていく力」が問われています。

同窓会としては、今後も今まで以上に東高のために、同窓会の果たすべき役割をしっかりと見極め活動を続けていきますので、御理解、御協力の程、何卒よろしくお願いたします。

最後に、今回の第八号発刊にあたりましては、多くの方々から執筆等、御協力をいただいております。関係各位に心から感謝申し上げます。





福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名

第6条 役員の出選は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成22年度 歳入歳出決算書

歳入金額 2,734,173円
歳出金額 1,966,553円
差引残額 767,620円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増 減, 備 考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 7 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残 額, 摘 要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在 校 生 支 援 事 業, 公開文化祭後援費, 予備費, 合計.

\* 項目科目間の流用を認める。

平成23年度 歳入歳出予算書

歳入金額 3,250,000円
歳出金額 3,250,000円
差引残額 0円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 7 columns: 項目, 23年度予算額, 22年度予算額, 比較増減額, 備 考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 7 columns: 項目(科目), 23年度予算額, 22年度予算額, 比較増減額, 備 考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在 校 生 支 援 事 業, 公開文化祭後援費, 予備費, 合計.

\* 項目科目間の流用を認める。

# 「東高応援基金」 協賛者名

( )は卒業期  
( )は旧姓

## ○「東高応援基金」について

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになりましたら、卒業年度もしくは何期かを記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東校会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

尾形信裕(1)木村浩一(1)後藤佳宏(1)西山尚利(1)原田克典(1)尾形幸男(1)三浦信彦(1)阿部宗弘(1)佐藤

- 恒夫(1)高橋宏昌(1)菊池浩二(1)岡田正孝(安斎)(1)大槻育男(1)岡淳一郎(1)久能靖(1)高橋治彦(2)阿部真人(2)篠木孝夫(2)真柴毅(2)阿部浩行(2)小野浩樹(2)穴戸佐寿(2)津田昌泰(2)渡辺伸一(2)岡崎一博(2)尾形典良(3)齋藤孝一(3)鈴木友彦(3)矢貫卓(3)紺野信幸(3)佐藤和生(3)三浦保(3)山田昌信(3)太田幸人(3)岡田正明(3)小林雄(3)外山淳一(3)服部信弘(3)森進一(3)安藤武仁(3)寺島健吾(3)西條正美(3)横山剛(3)大井奨(3)安田清克(3)泉田太郎(3)植田光樹(3)坂巻幸司(3)河野糧祐(4)峯智和(4)横澤征宏(4)梅津真樹(4)佐藤真一(4)長嶺俊英(4)星達雄(4)菅野充広(4)高橋秀明(4)松本純一(5)尾形隆(5)上川高志(5)永澤憲一(5)渡辺伸克(5)手塚健一(5)角田英昭(5)高野秀和(5)渡辺裕哉(5)遠藤弘一(5)黒津健(5)鈴木政好(5)山岸淳一(5)歌川勝也(6)佐藤利久(6)藤原聡(6)山川毅(6)桂山洋幸(6)阿曾一寛(7)中村孝雄(半澤)(7)佐藤新一(7)渡部泰史(7)川名努(7)黒江昌宏(7)森康洋(7)織井健次(7)今野賢治(7)児玉哲也(7)松本琢也(7)渡辺昌幸(8)石原英明(8)菅野正則(8)小林孝雄(8)岡日出夫(8)佐久間潤(8)原田淳司(8)鈴木俊一郎(8)河野拓和(9)後藤正治(9)松田浩敬(9)篠木明朗(9)迎源美(9)立花純孝(9)瀬戸計行(9)内山雄史(10)遠藤英樹(10)佐藤宗孝(10)加藤芳史(10)田中信

- 次(10)加藤剛(10)三浦和幸(10)小野洋正(10)林谷市(10)栗花茂雄(11)佐藤智頭(11)清野貴典(11)根本一幸(11)宮崎康弘(11)菊地輝臣(12)猿田秀和(12)服部博志(12)山岸正俊(12)安藤直人(13)川勝庸史(13)佐々木達(13)本多真史(13)熊田教平(13)安田裕(13)石川亨(13)岡部樹(13)佐藤幸樹(14)松野哲郎(14)三浦洋平(14)菅野洋和(14)三浦康寛(14)曳地賢治(14)橋内義知(14)小山晃(14)宮本教広(14)渡辺秀一(15)菅野達樹(15)菅野元樹(15)高橋智典(15)阿部裕一(15)齋藤訓朗(15)齋藤聡(15)菅野貴之(15)柘植健至(15)守山直樹(15)鈴木尚也(16)内谷沙也加(橋内)(16)逸見智則(16)佐藤理江(16)太田幸二(16)安倍利雄(16)茂木貴光(16)阿部信一(17)加藤友幸(17)鳴井靖子(川勝)(17)齋藤真由美(大友)(17)尾形真希(17)菅野恵実(17)武田茂(17)土屋映梨(17)中野真理(17)松野大悟(17)星武雄(17)上杉光成(17)菊池七重(18)尾形浩(18)駒木根絵里(18)佐藤まゆ子(18)谷内雅一(18)根本元徳(18)遠藤文敬(18)笠原弘毅(18)湯野川賢一(18)塩野敏(18)石澤亜由美(19)酒井強(19)高井秀(19)片平美代子(19)高橋歩(19)本多郁恵(19)渡邊祝子(19)蓬田史徳(19)浅川吉徳(19)浅川吉和(19)佐藤翔太(19)渡邊舞(20)橋内基純(20)齋藤勝敏(20)二瓶真人(20)笠原敬男(20)齋藤広彰(21)佐藤和美(21)鈴木恭平(21)野津智華子(21)伊達孝浩(21)山尾妙子(21)菊池幸世(21)山本拓也(21)荒昌範(21)小林

- 大悟(21)高橋奈津美(21)二瓶美希(熊谷)(21)酒井友和(21)菅原綾(22)竹内大崇(22)矢吹友紀(22)塩谷卓也(22)鈴木佳孝(22)藤塚淳(22)見城映(22)渡邊亮(22)笠間範子(23)柳内宏太(23)甚野清英(23)矢館典典(23)水口秀一(23)山岸恵介(23)米田秀(23)佐藤未悠(23)高橋政哉(23)澁谷智弘(23)伊達孝典(23)桑原裕真(23)齋藤直宏(23)竹中優里子(23)阿部尚徳(23)紺野靖(23)坂田亮人(23)長島慎弥(23)菅野数宙(24)鈴木翔太(24)黒澤亮(24)瓶子綾(24)中野孝海(24)山内雄太(24)遠藤寛人(24)加藤文実(24)見城藍(24)小宮雄介(24)佐々木宏樹(24)菅野章平(24)福地美香(24)佐藤卓也(24)本多紗貴(24)渡邊公偉(24)茂木聖直(24)紺野雄太(24)阿部兼太郎(24)奥山勤武(24)荒筆子(25)川口夢加(25)木村亮介(25)永山貴教(25)山岸晃平(25)山岸朝香(25)阿部隆徳(25)永山竜也(25)府野浩和(25)松野哲士(25)若木豪人(25)渡辺貴儀(25)佐藤翔(25)宮本圭太(25)乙葉祐介(25)坂内健人(25)引地昭裕(25)佐藤貴裕(25)塚本健太(25)菱沼猛(25)實槻拓(25)山形俊介(25)渡邊沙知(25)駒木根詩歩(26)三浦ゆかり(26)目黒祐太(26)伊藤奏(26)大原優(26)尾形早紀(26)千代間祥之(26)山口仁史(26)吉田有希(26)大内豪(26)渡邊仁哉(26)紺野友里絵(26)穴戸千恵(26)高島勇介(26)中野翔太(26)鈴木雄一郎(26)阿部裕介(26)遠藤慎也(26)小林真里子(26)佐久間美佳(26)佐藤越萌(26)遠藤禎之(27)高槻弘人(27)

- 小島圭史(27)小野貴史(27)川口真(27)佐々木孝智(27)佐藤芳哉(27)畠彩乃(27)北村源規(27)島毛七也(27)前田有希(27)間船巧(27)渡邊兼人(27)佐藤由可子(27)柳田成美(27)片平陽大(27)佐藤香(27)久田義人(27)渡邊由貴(27)太田亜純(27)笠原聡(27)菊地悠介(27)小関大博(27)根本明大(27)鹿野雅之(27)三浦翼(27)奥山朋世(27)菅野貴徳(27)塩谷昌之(27)丹治寛佳(27)野地千尋(27)岩瀬里実(28)栗城康佑(28)佐藤耕一(28)関川崇(28)笹村茂人(28)霜多英恵(28)三浦崇悦(28)畑和徳(28)舟生優紀子(28)目黒啓介(28)山本伸洋(28)渡邊匠(28)角田友希(28)佐藤真美子(28)佐藤恵(28)大和田善愛(28)橋内寛人(28)黒田耕平(28)山崎勇貴(28)遠藤俊平(28)岡崎綾奈(28)木村暁(28)小関裕貴(28)佐戸川伸弥(28)澤井友平(28)加藤曜(28)佐久間敏弘(28)関根真衣(28)菱沼康平(28)吉田雄基(28)渡邊ちひろ(28)

平成二十二年四月一日から平成二十三年三月三十日まで振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

Table with 11 columns: 卒業年度 (S57-H3), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

Table with 11 columns: 卒業年度 (H4-H13), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

Table with 10 columns: 卒業年度 (H14-H22), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

(表1)

大学別合格者数 (平成22・21・20年度入試)

Table with 5 columns: 大学名, 平成22年度生, 平成21年度生, 平成20年度生. Lists various universities and their student counts.

Table with 5 columns: 大学名, 平成22年度生, 平成21年度生, 平成20年度生. Lists private universities and their student counts.

現役大学等進学率…平成22年度生(75.0%)、平成21年度生(73.6%)、平成20年度生(90.6%)

進路



進路指導主事 渡邊 幹男

二十九期生の進路状況について説明いたします。まず、二十九期生にとって非常に残念だったことは、震災の影響で、国公立大学の後期試験が中止、延期、センター試験と調査書で合否判定、といった措置がとられ、「後期試験まで頑張り続けて合格を勝ち取る東高生」の戦いの場が奪われてしまったことです。例年ですと、後期

試験で二十五〜三十五人の合格者を出していただけに、受験さえできずに合否を決められてしまふことは、受験生にとつて大変悔しかったのではないでしようか。さらに、センター試験が易化し、東高生にとつて追い風となるかと思いましたが、意外と苦戦することになってしまいました。AO・推薦入試に出願するよりも、受験勉強を最後までやって、学力で勝負する一般入試に多くの生徒が臨んでいた学年だっただけに、意外な結果でもありました。特に東高の国公立大学の受験者にとつては、倍率が高くなり、高いレベルでの戦い

(表2)

を強いられることになりました。しかし、さすが東高生です。福島大学の合格者は五十人、山形大学の合格者は十七人で、どちらも県内トップの人数でした。既卒の浪人生も一年間の苦労に耐えて二十三人が国公立に合格し、震災前には明るい笑顔で報告に来てくれました。

大学では震災のため、入学式を一ヶ月後に延期したり、入学を文章で通達したりするところもあつたようです。ですから、入学までの間、一時避難所となつていた東高に、ボランティアでかけつけてくれた二十九期生もたくさんいました。そのような心やさしい二十九期生がそれぞれの新天地で活躍されることを祈っております。

今年の三年生の三十期生は、震災の影響にも負けず、進路目標実現にむけて、今、頑張っています。これからも東高生への応援よろしく願います。

## 29期総括



29期学年主任  
藤田 敏夫

- 一 初歩期
- 二十九期の基本方針
- (1) 生活習慣の確立：授業への姿勢と充実、休み時間と授業のメリハリ、提出物期限の厳守
- (2) 3年次まで5教科での継続：総合力の大切さの理解、英・数・国教科の連携
- (3) 学年担任団の結束：学年間

での相互意見交換・共通理解(二〇〇八(平成二十)年四月八日(火)入学式が挙行され、「日々の生活の中で、東高生としての誇りと自覚を持ち、文武両道の精神を忘れずに限らない可能性に向かって何事にも積極的に挑戦していきたい」として、「新しい東高の歴史を刻んでいけるよう勉学・部活動に精一杯励むこと」の力強い誓いの言葉(代表 山崎健太郎君)で二十九期の学校生活が始まった。

入学式の翌日から対面式・実力テスト・身体測定・学習オリエンテーション・クラス・委員会役員編成等と緊張の一週間を過ごした。そしていよいよ東高生としての洗礼を受ける校歌・応援歌指導。しかし厳しく辛く感じた校歌・応援歌指導を披露すべき桜梅戦は雨により中止。夏の高校野球県大会時に信夫ヶ丘球場で学年全員参加という形で応援となった。猛暑の中、大声援・大歓声をおくりまさに暑い夏だった。秋の全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会決勝戦も忘れることができない。Jヴィレッジスタジアムでの全国大会を駆け五百名余りの生徒が応援。残念ながら富岡高校に惜しくも負けてしまったが、素晴らしい応援ぶりだった。

二期期に入り非公開の東桜祭にも上級生の衣装や演出には及ばないながら、各クラスとも強い団結力を見せ、ダンス・歌・芝居に取り組んだ。夏休み明けの間もない時期に、放課後の部活動練習の合間を縫ってよく準備をしたと思う。しかし、学年団を最も悩ませたのは、十一月の模擬試験での結果が思わしくなかったことだ。英・数・国三

教科担当者が成績を分析し、様々な角度から検討し、合同HR(緊急学年集会)を開いた。これまで東高のやり方として積み上げてきたものを大事にしつつ現状を改善し、東高のジレンマの克服、文武両道という試験を乗り越えてこそ自分の夢実現。その具体的な対応としていかに日々題・週末課題に取り組ませるか、家庭学習の充実をはからせるかに悩み、三学期から「週末課題一〇〇%提出計画」の実施なども試みた。

### 二 混迷期

この年度の最大の苦悩は新型インフルエンザの蔓延につきる。新型インフルエンザに罹患する者が全学年に広がり、公開の文化祭(東桜祭)さえ本当に予定通り実施できるか心配された。「輝け東の桜花達!! 刻め新たな歴史!!」をスローガンで実施計画が進められていたが、状況によつては「非公開」にするか、最悪の場合は「中止」という選択が迫られた。幸いにも「公開」と決定し、晴天にも恵まれ二、五〇〇名の方々が入場され、東桜祭は大成功のうちに終わった。

しかし、文化祭明けインフルエンザが蔓延し、学級閉鎖・休校という状況に陥った。二年生の学校活動最大の行事である修学旅行も実施が危ぶまれた。当初予定していた保護者会も延期せざるを得なかった。事前に保護者へ実施アンケートを取るなどしたが、その不安も大きかった。インフルエンザの感染防止と予防など最大限の配慮を施した。その甲斐もあり、誰一人として体調を崩すこと無く終了することができた。天候にも恵ま

れ安堵した。

昨年度の遠足(自然探求学習)・桜梅戦などが雨天であったことから私個人にも「雨男」の風評があったが、我々の学年は天候に恵まれたというのを立証もしてくれた。旅行前のあの騒動は一体何だったんだらうという感じであった。修学旅行先が九州・長崎方面と決定し、出かける前までは「沖縄が良かった」などの不満も聞かれたが、帰校後、歴史と文化と平和を趣旨とした修学旅行は良かったとの声を耳にすることができ、学年団として安心した。

福山雅治主演のNHK大河ドラマ「龍馬伝」の前年であったことも印象に残る一つであった。来年度の受験に先駆け太宰府天満宮での合格祈願をし、十月十二日から十五日の三泊四日の九州・長崎方面への修学旅行を終えた。

学習面では、英語に重点を置いた取り組みを一年間実施した。その対応として「週明け確認テスト杯」と銘打ってクラス・学年全体の意欲高揚のため、確認テストの実施後クラス対抗で満点者の数・クラス平均により毎週一位のクラスには優勝カップを与えた。残念ながら我がクラスには一度も優勝カップが飾られることがなかった。

また、プログレス(家庭学習時間の記録)を毎朝記入し、予習・復習や課題提出・日々題・朝自習確認テストなどを充実させ、月一度プログレスを持ち帰らせ、保護者にも激励のコメントをお願いするなどの啓蒙作戦をとったのもこの年度だった。

### 三 激動期

学年の基本目標を「安易に妥協することなく頑張ろう。進路目標実現に向けみんなで心一つに」とし最後の学年活動を進めた。勉強が苦しくなる受験科目の教科数を減らして対応しようという生徒が出てくる。学年全体の雰囲気を受験にとつて重要であることの確認もした。

この年度のイベントは、創立三十周年記念式典である。六月二十五日、県文化センターで厳粛かつ盛大な式典が開催された。東高の三十年という節目の年に三学年という卒業学年を迎えられたことは大変な喜びであった。本校第六期生でオペラ歌手の樋口達哉氏の記念講演も素晴らしいもので、全校生徒が声高らかに歌う校歌が会場一杯に響き渡り、これまでの歩みの上に我々があり、校風を大事にし、新しい伝統を築いて行かなければならない思いを強くした。卒業生総数も我々の学年で一人を越えた。(一万百十七人)

創立三十年、卒業生総数が一人を越えた二十九期は記録に残る学年という自負を卒業生に持つて今後活躍して欲しいと思つた。この歴史ある年、部活動において、弓道部男子の全国大会出場をはじめ、六月のインターハイ県大会時にはハンドボール部が決勝に進出した。あづま総合体育館での試合では、大応援団を編成し、「応援活動を展開した。野球部の最後の夏の活躍も印象に残った。私自身は三者面談があったため応援に行けなかったのが心残りである。

福島県立医科大学を試験会場に二八五名の生徒がセンター試験に挑んだ。後期試験は三・一の東日本大震災により、受験さえできないような異常事態に

協することなく頑張ろう。進路目標実現に向けみんなで心一つに」とし最後の学年活動を進めた。勉強が苦しくなる受験科目の教科数を減らして対応しようという生徒が出てくる。学年全体の雰囲気を受験にとつて重要であることの確認もした。

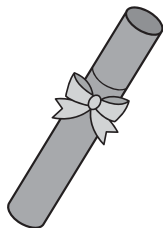
遭遇してしまつた者もいたが、「東高生は最後の最後まで伸びる！」を実践してくれた。

四 最後に

前任校で学年主任として卒業生を送り出したといふものの、東高に赴任して二年目。学校が異なるればやはり様々な対応にも違いがある。本校で卒業生を出した経験のない中、私自身が不安な先の見えない感じを多少持つていたのも事実であった。しかし、学年担任八人(日下淑子・渡辺裕子・岡合博一・佐藤伸郎・樋口文子・中村達哉・根津志功)が三年間誰一人替わらず、時には意見の相違も当然あつたが、結束を維持して取り組み続けることができた。それが二十九期の生徒諸君に様々な形で反映してくれたと思う。

何かとパフォーマンスが好きで、行事の度にやらかし、それが時には不評を買つてしまつたこともあるが、部活動の顧問から「技術面は今いちだが、ハートは良いのが好ましい」というお褒めの言葉を受けたことがあり、この学年を象徴しているのかと個人的に喜んだ。

卒業式は終わつていたものの、突然の大震災の発生により終了してしまつた。しかし、今後東高卒業生として大いなる活躍を期待している。多くの支えがあり無事三年間を終えることができた。保護者の皆様やすべての先生方へのご指導やご協力に感謝するのみである。



# 全国大会出場報告

## 感謝

弓道部顧問 千葉 聡

決勝トーナメント二回戦。相手は千葉県船橋芝山高。13中対13中。同中のため各自一本ずつ計五本の競射を行うも、5中対5中の同中となる。さらに競射を行い4中対3中で準々決勝進出を決めた。

弓道の試合は一チーム五人により、制限時間八分間で行われる。一本ずつ順番に引き、各自四本、計20本の中数を競つ。同中であれば更に各自一本ずつ、計5本で延長戦を行い、勝敗がつくまで繰り返す。サッカーのPK戦のようなものと言えるかもしれない。一人が四本しか引けないという点も、弓道ならではの奥の深い所である。緊張感と闘いながら一本たりとも無駄にできない試合が繰り返される。動きが少ない分、選手は勿論、応援席にいる者も喘えようもない緊張感に包み込まれる。

正に静寂の中の闘いである。緊張感を制したときも、そして準決勝で敗れ、五・八位決定戦のときも選手達は冷静で自分を見失わなかった。戦いに敗れ涙を浮かべながら順位決定戦に控えるチームがある中で、東高生たちは自分が置かれている状況を冷静に把握し、今すべきことに全身全霊を傾けていた。部活動に青春をかけて取り組む意味は正にこの瞬間にあつたのであると感している。限られた

時間の中で学習と部活動との両立を果たす極意を彼らはひたむきに努力することで自分のものとしたのである。結果は第五位。順位決定戦の中では最高位である。彼らと共に部活動に取り組めたことに感謝し、これからも部員たちと共に精一杯弓を楽しんでいこうと思う。

最後に弓道部の活動を支えていただいた多くの方々、そして平成十五年に同好会として発足以来、私たちと苦楽を共にしてくれたすべてのOB達に心から感謝致します。これからも弓道部は全力で歩み続けます。

## インターハイに参加して

二年一組 中村 隼

まず初めに、今回全国大会であるインターハイに出場するにあたって応援してください。みなさまに感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございます。

今年のインターハイは、三月十一日にあつた東日本大震災が起こつたことで、すぐたいへんなものになつたと思います。福島は、原発もあり、ここ福島でこれからも暮らすことができないのかという、部活よりも生活を心配した日々が続いた年でしたが、前剣道部顧問である佐久間先生が地震後の練習の前に、今自分達が被災している多くの人がいる中で剣道をしてほしいのか自分達なりに考えてほしい

と言われ、両親と話し合つたりし自分の中で震災があつた今年だからこそ頑張ろうと言つ結論になりました。

このようないへんなことがあつた年でしたが、このようにインターハイ出場することができたのは自分を支えてくださった周りのみなさんのおかげだと思いますし、自分が試合にのぞむさいも心の中に感謝の気持ちを置いていました。

震災のせいで、先生方の異動が不規則な八月になつてしまいが、自分がインターハイに出場できなかったのですが、顧問である佐久間先生が八月で保原高校の異動になつてしまひインターハイと一緒に行くことができなかったことがとても残念です。

また、初出場ということもあつて緊張して頭が真っ白になつてしまひ自分の剣道をするのもできずに一回戦負けというとても不甲斐ない結果になつてしまひ、応援してください。たくさんの人達に恩返しすることができなかつたことも残念です。

今年の特別な経験をしたことを今後の自分の糧として来年度のインターハイを継げるものとし、今度こそはみなさんに恩返しできるような結果を残せるように頑張ります。

## NHK杯全国高校放送

放送委員会顧問 伊藤規生

震災時(生徒は完全下校、私は職員室にいました)、我が身の安全確保が精一杯で、放送室内機材の心配までできませんで

した。室内はめちやくちや、機材もほとんど壊れてしまつた。と覚悟しましたが、日頃の整理整頓(?)の甲斐あつてか、送出機材・編集PCとも無傷で済みました。せめてもの幸いでした。

第一体育館に設置された避難所の模様を記録しようかと思いましたが、どうしてもカメラを回す気になれませんでした。

三月中は「首都圏計画停電」の影響で全国大会が実施できるかどうか先が読めない状況でしたが、関係者の尽力により(例年通りの形態ではなく)なりました。

昨年悔しい思いをした生徒たちも奮起し、今回モラジオドキュメント部門で全国大会に進出することができました。

今年の大会は縮小開催、具体的には大部分を事前非公開審査とし、審査通過者(校)のみ東京に集められるというものです。本校の作品は非公開審査(五分の一に絞り込まれる)を通過できず、いわば門前払いを喰らつた形になり、またしても悔しい思いをすることになつてしまいました。今年は何が何でも東京に行き、一年次からがんばつてくれた三年生に区切りをつけさせたかっただけに、残念です。

来年こそは「出場しただけ」から脱却し、上位入賞すべく、「勝てる」番組作りを心がけたいと思います。(二期生)

平成23年度 部活動報告

●運動部

野 球 部

第54回春季東北高校野球選手権大会
2回戦 福島東6 0 安達東
3回戦 福島東3 2 安達
準決勝 福島東0 8 聖光

第93回全国高校野球選手権福島県大会
2回戦 福島東9 8 四倉
3回戦 福島東2 6 会津工

第63回秋季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会
1回戦 福島東1 2 福島商
代表決定戦
1回戦 福島東8 2 安達東
2回戦 福島東9 1 保原

サツカ1部

福島県高等学校体育大会東北地区大会
1回戦 福島東7 1 福島商
2回戦 福島東1 0 明成
準決勝 福島東0 1 安達
3位決定戦 福島東2 2 二本松工

福島県高等学校体育大会 (PK4 5)
1回戦 福島東1 0 白河
2回戦 福島東0 3 聖光
第90回全国高等学校サッカー選手権福島県大会

4回戦 福島東4 0 須賀川
5回戦 福島東3 2 会津工
準々決勝 福島東0 2 聖光
福島県高等学校新人体育大会
東北地区大会

卓 球 部

決勝戦 福島東1 0 聖光
2回戦 福島東7 0 川俣
準決勝 福島東1 0 福島商

個人ダブルス
丸島・渡邊組 8位
桜井・角田組 13位

個人シングルズ
野地裕美 7位
福島県高等学校体育大会
男子
学校対抗
1回戦 2 3 白河実業

個人ダブルス
丸島・渡邊組 2回戦敗退
桜井・角田組 1回戦敗退

個人シングルズ
丸島・渡邊組 2回戦敗退
丸島・渡邊組 2回戦敗退
桜井 1回戦敗退

個人ダブルス
丸島・渡邊組 1回戦敗退
野地裕美 1回戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
男子
学校対抗
2回戦 3 3 福島北

3回戦 3 3 福島西
準決勝 1 3 3 聖光
決勝 1 3 3 福島工
第2位

個人
桜井貴史 3位
宮 健太 17位
渡邊聖也 県大会出場

個人
中米ひとみ 8位
渡邊 萌 県大会出場
福島県総合体育大会県大会
男子
学校対抗
2回戦 2 2 白河実業
3回戦 1 3 3 郡山東

個人
桜井・渡邊 2回戦敗退
宮 1回戦敗退
(ベスト16)

個人
中米ひとみ 渡邊 萌
全日本選手権大会東北地区予選
男子
シングルズ
桜井貴史 7位
宮 健太 12位
角田明彦、山田多聞 県大会出場

ダブルス
丸島・渡邊組 ベスト16
桜井・角田組 県大会出場

個人
丸島・渡邊組 2回戦敗退
(ベスト32)

個人
角田、宮 2回戦敗退
山田 1回戦敗退
ダブルス
桜井・角田組、宮・上石組 3回戦敗退

丸島・渡邊組 2回戦敗退
福島県高等学校新人体育大会
東北予選
男子
学校対抗
2回戦 3 0 成蹊

3回戦 0 3 0 学法福島
準決勝 0 3 2 聖光
決勝 3 3 3 福島工
第2位

個人ダブルス
桜井・角田組 8位
渡邊・丸島組 9位
宮・山田組 10位
個人シングルズ
宮 健太 10位
渡邊聖也 12位
角田明彦 13位
福島県高等学校新人体育大会
男子
学校対抗
2回戦 3 0 郡山北工
3回戦 3 0 勿来工業

準々決勝 0 3 郡山商
(ベスト8)

個人ダブルス
桜井・角田組、渡邊・丸島組 4回戦敗退(ベスト16)

個人シングルズ
宮・山田組 2回戦敗退
宮 4回戦敗退(ベスト32)

陸上競技部
福島県高等学校体育大会
男子
競歩
寺内貴寛、松本捷希、安達奨、松本捷希、寺内貴寛、佐藤伸哉 42秒78

走幅跳 6位 児山満寿胤
走高跳 6位 寺内貴寛
1600mリレー 1位 寺内貴寛
松本捷希、寺内貴寛、畠 昂平、佐藤伸哉 3分21秒22

女子
400m 3位 馬場ちえり
走高跳 2位 梶田光里
200m 5位 馬場ちえり
東北高校大会結果
男子
準決勝敗退 佐藤伸哉

走幅跳 22位 児山満寿胤
4x100mリレー 準決勝敗退
4x400mリレー
8位 3分27秒34
畠・佐藤・松本・寺内
女子
予選敗退 馬場ちえり
200m 準決勝敗退
400m 準決勝敗退

走高跳 11位 梶田光里
東北高校新人大会結果
男子総合1位
(トラック)1位、フィールド1位)
女子総合3位
(トラック)3位、フィールド4位)
県高校新人大会結果
男子
2位 50秒12 畠 昂平

800m 1位 1分59秒83 畠 昂平
400mH 3位 56秒65 舟木裕大
4x100mリレー 43秒30 大竹利幸

4x400mリレー 3分23秒83 菅野・大竹・畠・松本
1位 3分23秒83 松本・畠・大竹・舟木

女子
400m 1位 57秒15 馬場ちえり
500mW 2位 29分59秒94 遠藤香純

走高跳 1位 1m60 梶田光里

男子総合 2位
女子総合 6位
東北高校新人大会結果

4x100mリレー
5位 43秒31 菅野・松本・大竹・畠
4x400mリレー
4位 3分22秒81 松本・畠・大竹・舟木
女子
400m 1位 57秒50



走高跳 4位 馬場ちえり  
1m57  
梶田光里  
県高校駅伝競走大会結果  
男子  
10位 2時間21分45秒  
本田・丹野・宍戸・高橋  
三本杉・野田・松野  
バスケットボール部  
福島県高等学校体育大会県北  
地区予選大会  
男子  
1回戦 福島東96 20聖光  
2回戦 福島東63 44福島  
1位トーナメント (ブロック1位)  
福島東61 78福島商  
3位決定戦 福島東44 64福島工  
県大会出場  
女子  
1回戦 福島東121 14川俣  
2回戦 福島東60 34福島商  
1位トーナメント (ブロック1位)  
福島東42 75福島西  
3位決定戦 福島東58 47安達(3位)  
県大会出場  
福島県高等学校体育大会  
男子  
1回戦 福島東83 41磐城桜が丘  
2回戦 福島東68 63日大東北  
3回戦 福島東70 72田村  
【ベスト8】  
女子  
1回戦 福島東68 69若松商  
【1回戦敗退】  
福島県高等学校バスケットボール  
選抜大会県北地区予選  
男子  
1回戦 福島東106 26二本松工  
2回戦 福島東48 99福島商  
女子  
1回戦 福島東46 76福島西  
福島県高等学校体育大会県北

地区予選大会  
男子団体 準優勝  
男子個人  
1位 阿部裕樹(66kg)、  
野地友哉(73kg)、  
佐々木匠(+100kg)  
3位 庄司龍弥(+100kg)、  
熊谷泰輝(90kg)  
福島県高等学校体育大会  
男子団体 ベスト16  
男子個人  
3位 阿部裕樹(66kg)  
ベスト8 東北大会出場  
野地友哉(73kg)  
福島県総合体育大会柔道競技  
県北地区予選  
男子個人  
1位 佐々木匠(無差別)  
3位 本多晋吾(先鋒)  
福島県高等学校新人柔道大会  
県北地区予選大会  
男子団体 7位  
男子個人  
3位 本多晋吾(60kg)  
深田雅之(81kg)  
県大会出場  
福島県高等学校新人柔道大会  
男子個人  
ベスト8 本多晋吾(60kg)  
福島県高校柔道選手権大  
会出場  
剣道部  
福島県高等学校体育大会県北  
予選  
男子団体 準優勝  
女子団体 5位  
男子個人  
中村 隼 ベスト8  
女子個人  
梅津未希子 ベスト16  
福島県高等学校体育大会  
男子団体  
2回戦 福島東3 2郡山  
3回戦 福島東2 2学法福島  
女子団体 (本数負け) ベスト16  
1回戦 福島東0 5白河  
初戦敗退  
男子個人

中村 隼 準優勝  
東北選手権、  
インターハイ出場  
女子個人  
梅津未希子 3回戦進出  
ベスト32  
全国高校総合体育大会  
男子個人  
中村 隼 1回戦敗退  
福島県高等学校体育大会新人  
県北予選  
男子団体 4位  
男子個人  
中村 隼 ベスト8  
福島県高等学校体育大会新人  
県大会  
男子団体  
1回戦 福島東2 2会津工  
2回戦 福島東3 2相馬  
3回戦 福島東2 1日大東北  
準決勝 福島東0 5湯本  
第3位  
(東北選抜大会出場権獲得)  
男子個人  
中村 隼 ベスト8  
第24回東北高等学校剣道選抜  
優勝大会  
平成23年度東北高等学校冬季  
剣道大会選抜県北地区予選  
予選免除  
平成23年度福島県高等学校選  
抜剣道優勝大会  
弓道部  
福島県高等学校体育大会県北  
地区予選  
男子団体 3位  
今野雄太・菅野直人  
齋藤弘樹・清水秀計  
佐藤拓磨・赤石澤伸  
小野雄斗  
女子団体 1位  
佐藤春香・伊藤 華  
泉 諒子・武田真奈  
萩原夏美・梅宮彩香  
武石春菜  
男子個人 県大会出場  
清水秀計(3年)

小野雄斗(2年)  
高橋祐輔(2年)  
女子個人  
3位 佐藤菜月(2年)  
4位 萩原夏美(3年)  
5位 泉 諒子(2年)  
県大会出場  
佐藤春香(3年)  
福島県高等学校体育大会  
男子団体 6位  
今野雄太・菅野直人  
齋藤弘樹・清水秀計  
佐藤拓磨・小野雄斗  
赤石澤伸  
女子団体  
1位・射道優秀  
東北大会及び  
インターハイ出場  
佐藤春香・伊関奈津美  
泉 諒子・武田真奈  
萩原夏美・伊藤 華  
梅宮彩香  
女子個人  
2位・射道優秀  
東北大会及び  
インターハイ出場  
今野雄太(2年)  
武田真奈(2年)  
東北高等学校弓道選手権大会  
女子団体 ベスト8  
佐藤春香・伊関奈津美  
泉 諒子・武田真奈  
萩原夏美・佐藤菜月  
伊藤 華・梅宮彩香  
女子個人  
6位・射道優秀  
佐藤春香(3年)  
北東北インターハイ  
女子団体 5位  
佐藤春香・伊関奈津美  
泉 諒子・武田真奈  
萩原夏美・佐藤菜月  
伊藤 華  
女子個人 準決勝進出  
佐藤春香(3年)  
福島県高等学校新人体育大会  
県北予選  
男子団体 1位  
佐久間涉伍、赤石澤伸、

田宮公周、高橋啓太、  
小野雄斗、渡邊信孝、  
尾形健太  
女子団体 1位  
伊関奈津美、梅宮彩香、  
泉 諒子、武田真奈、  
越尾菜穂、武石春菜、  
佐藤菜月  
男子個人  
1位 小野雄斗(2年)  
2位・射道優秀  
赤石澤伸(2年)  
5位 菱沼宏樹(2年)  
女子個人  
1位・射道優秀  
梅宮彩香(2年)  
2位 泉 諒子(2年)  
県大会出場  
黒澤恵理(2年)  
伊藤 華(2年)  
伊関奈津美(2年)  
福島県高等学校新人体育大会  
男子団体  
2位・射道優秀  
東日本大会出場  
県選抜大会出場  
今野雄太、赤石澤伸、  
石橋克也、高橋啓太、  
小野雄斗、高橋祐輔、  
坂上一雪  
女子団体  
2位  
東日本大会出場  
県選抜大会出場  
伊関奈津美、梅宮彩香、  
泉 諒子、武田真奈、  
伊藤 華、越尾菜穂、  
鳴原志保美  
男子個人  
1位 今野雄太(2年)  
2位 高橋啓太(2年)  
東北選抜大会出場  
4位 小野雄斗(2年)  
女子個人  
2位 黒澤恵理(2年)  
東北選抜大会出場  
5位 武田真奈(2年)  
6位 伊藤 華(2年)  
福島県高等学校体育大会県北

地区予選  
男子  
1部リーグ  
福島東2 0 福島西  
福島東1 2 福島  
福島東2 2 福島工  
入替戦  
福島東2 1 福島商  
福島東2 0 福島北  
福島東2 3位で県大会出場  
女子  
一次リーグ  
福島東2 0 桜の聖母  
福島東2 0 本宮  
二次リーグ  
福島東2 0 福島北  
福島東0 2 安達  
福島東2 0 福島明成  
入れ替え戦  
福島東0 2 聖光  
福島東1 2 福島南  
福島東高等学校体育大会  
6位で県大会出場  
男子  
1回戦 福島東0 2 白河  
女子  
1回戦 福島東2 0 修明  
2回戦 福島東2 0 南会津  
3回戦 福島東2 0 南会津  
準々決勝 福島東0 2 橘  
F T V杯への出場権を獲得  
ベスト8  
バドミントン部  
福島県高等学校体育大会県北予選  
男子学校対抗戦 第3位  
男子ダブルス 第3位  
齋藤 涼・野木一弥  
第5位  
加藤 駿・一條 諒  
神野智也・佐藤拓也  
佐藤俊介・仙田和之  
男子シングルス 第5位  
神野智也/野木一弥  
女子は県大会へ出場できず  
福島県高等学校体育大会  
男子学校対抗 ベスト16  
男子ダブルス  
神野・佐藤組 ベスト16

齋藤・野木組、  
加藤・一條組、  
佐藤・仙田組 ベスト32  
男子シングルス  
神野智也、野木一弥 ベスト32  
福島県高等学校新人体育大会  
県北予選  
男子学校対抗戦 第5位  
男子ダブルス  
第5位 菅野・大槻組  
第9位 渡邊・伊藤組  
男子シングルス  
第9位 菅野瑛樹 大槻隼也  
女子シングルス  
第17位 小椋美里  
福島県高等学校新人体育大会  
男子学校対抗戦  
1回戦 2 3 安積  
男子ダブルス  
菅野・大槻組 ベスト32  
ハンドボール部  
福島県高等学校体育大会県北予選  
予選リーグ  
福島東26 25 福島商  
福島東27 26 聖光  
決勝トーナメント  
準決勝 福島東22 23 福島西  
3位決定戦 福島東31 29 聖光  
福島県高等学校体育大会 第3位  
福島東17 23 安積  
1回戦敗退  
福島県高等学校新人体育大会  
県北地区大会  
2回戦 福島東32 20 福島  
準決勝 福島東21 24 聖光  
3位決定戦  
福島東15 23 福島西  
福島県高等学校新人体育大会  
1回戦  
福島東32 21 安積黎明  
2回戦  
福島東26 24 学法石川  
3回戦 福島東36 22 須賀川  
全国高等学校選抜大会 県代

表決定戦への出場権を獲得  
(県代表決定戦1位、3位の  
結果を福島県高等学校新人体  
育大会1位、3位の結果とす  
る。)  
ソフトボール部  
福島県高等学校体育大会県北予選  
福島東16 7 福島  
(6回コールド)  
福島県高等学校体育大会  
予選リーグ  
福島東4 2 いわき秀英  
福島東8 7 相馬  
(延長8回)  
福島東5 1 安積黎明  
福島東1 6 須賀川  
第3位  
新人戦  
予選リーグ  
福島東8 1 いわき秀英  
(5回コールド)  
福島東3 1 安積黎明  
福島東25 1 福島  
(5回コールド)  
準決勝  
福島東1 0 須賀川  
決勝  
福島東4 5 郡山北  
(延長9回) 準優勝  
東北大会  
1回戦 福島東8 1 五所川原農業  
準決勝 福島東8 0 白石工  
決勝 福島東8 9 南陽  
(延長12回) 準優勝  
テニス部  
福島県高等学校体育大会県北予選  
男子  
【シングルス】  
第2位 原田 駿  
第3位 梅宮和真  
第5位 桑島貴嗣  
第6位 荒川皓哉  
第7位 野地大介  
【ダブルス】

第2位 原田 駿・梅宮和真  
第3位 桑島貴嗣・荒川皓哉  
野地大介・野地絃太  
以上県大会出場  
女子  
【シングルス】  
第1位 高橋誠果  
第2位 三浦依莉  
第3位 狩野佳奈  
第5位 菅野 菜  
第6位 矢吹捺美  
【ダブルス】  
第1位 高橋誠果・三浦依莉  
第2位 狩野佳奈・齋藤松実  
以上県大会出場  
福島県高等学校体育大会  
男子  
【学校対抗】  
2回戦 3 0 清陵情報  
3回戦 2 0 いわき光洋  
準々決勝 2 0 郡山  
決勝 0 2 磐城  
【シングルス】  
第3位 梅宮和真  
(東北大会出場)  
ベスト16  
原田 駿・桑島貴嗣  
【ダブルス】  
第5位 梅宮和真・原田 駿  
第7位 桑島貴嗣・荒川皓哉  
ベスト16  
野地大介・野地絃太  
女子  
【学校対抗】  
1回戦 3 0 勿来  
2回戦 2 0 いわき光洋  
準々決勝 2 0 会津  
準決勝 1 2 磐城桜が丘  
第5位 三浦依莉  
第7位 高橋誠果  
ベスト16 狩野佳奈

【ダブルス】  
第3位 三浦依莉・高橋誠果  
ベスト16  
狩野佳奈・齋藤松実  
第28回福島県春季ジュニアダブルス選手権大会  
男子 ベスト8  
梅宮和真・原田 駿  
第52回東北高等学校テニス選手権大会  
男子  
【学校対抗】  
1回戦 3 0 秋田商  
2回戦 1 2 岩手  
【個人戦シングルス】  
梅宮和真 1回戦敗退  
第64回福島県総合体育大会県北地区予選  
男子  
【男子 部シングルス】  
優勝 原田 駿  
準優勝 梅宮和真  
第3位 中村友彦・鈴木彬人  
第6位 鈴木雄太  
【男子 部ダブルス】  
優勝 原田 駿・梅宮和真  
準優勝 中村友彦・鈴木彬人  
第3位 見城 航・鈴木雄太  
清野晃嗣・菅野 優  
第66回国民体育大会少年の部選手権大会  
男子 第4位 梅宮和真  
第64回福島県総合体育大会  
男子  
【男子 部シングルス】  
優勝 梅宮和真  
第3位 原田 駿  
準優勝 梅宮和真・原田 駿  
ベスト8  
中村友彦・鈴木彬人  
【男子 部シングルス】  
第3位 紺野曼利  
第33回東北ジュニアテニス選



心臓が口から飛び出そうなくらい緊張しました。会長になれた時は嬉しい反面、先輩方が上手に行事を運営してきたように私もできるのかという不安がありました。行事が近づいてくる度に、そういう不安や何か問題が起きてしまわないかという心配で押しつぶされそうになっていく時、支えてくれたのは生徒会の仲間や、応援してくださった先輩や後輩、同級生の皆さん、そして先生方でした。一人で行事を造ることはできない。でもみんなで造れば素晴らしい行事になる。私は生徒会の活動を通して改めてそう感じました。今、一緒にいる仲間に出会えたことは奇跡です。その仲間と共に造り上げてきた行事はどれも私の大切な思い出です。そんな仲間に出会わせてくれた東高に、それ以外のどんな経験をさせてくれた生徒会に感謝しています。

(高島 麗奈)

### 弓道部

六月十三日、その日は引退式。私は高校生活最後の「矢」を射った。その時の結果は、「皆中」(四本中四本当てること)だった。あの時の快感は引退した今でも忘れない。しかし、高校最後のインターハイではつらい思いの連続だった。試合当日、最後の試合であるというプレッシャーからか、三年男子は皆、普段の実力とは程遠い行射(ぎょうしゃ)だった。私は恐れていた。弓道生活が終わってしまうのではないかと。しかし戦士たちは泥くさくも必死にくらいつき、決して戦いを捨てようとはしなかった。誰もがあきらめようとはしなかった。だが、僕も私も私たちが戦いは幕を下ろした。彼女らの勢いは誰も止められない。そう、全国の舞台へまっしぐら。そして彼女たちは美しく可憐に戦いその名を全国に知らしめた。女子と男子の結果は月とすっぽん

でもみんながんばったし、がんばることに意味がある。そのがんばりが後輩たちの次の「矢」につながる。(齋藤 弘樹)

### 陸上競技部

私にとつて陸上部の活動はかけがえのない思い出となりました。目標に向かって練習する仲間と切磋琢磨する事は、自分の技術を高め、チーム全体の雰囲気や練習の効率をも上げてくれます。こんな環境で自分を磨いてこれたことに感謝しています。また運動技術や能力の向上だけでなく、自分の気持ちやコンテロールすることを陸上を通して学びました。私達三十期生は、新型インフルエンザや東日本大震災などで大会出場不可になったり、上位大会の出場枠の変更などやりきれない気持ちで込み上げてくることもありましたが、どんな状況でも自分を正しく持ち、今自分は何をすべきかを判断する能力も身に付けることが出来ました。高校三年間の陸上で得たことを社会に出ても活かしていきたいと思っています。(児山満寿胤)

### 剣道部

私は剣道部での経験の中で、仲間の大切さということを知りました。先輩の三年生が引退し、私達二年生が中心となってチームを引っ張っていくことになる。どこかチームがまとまらず、何となく練習をしているという雰囲気を感じられていた。新人戦では県大会出場も出来ず、このままではいけないと思い、チーム全体が一つになるように努力しました。ついに、お互いの感情がぶつかり合ったり、部を辞めていってしまう部員もいたりしました。このような苦難や厳しい練習を乗り越えていった時、チームが一つにまとまってきたと感じることが出来ました。私一人ではチームをまとめ上げること

### 水泳部

東高水泳部は、高校水泳部では珍しく、スイミングスクールに通っている部員と学校で活動している部員で成り立っています。一年のうちは、二三年生が部を引っ張ってくれましたが、先輩が引退して、自分達が同じ立場になったときに、スクールに通う部員が多い中で、ちゃんと部活として活動できるか不安でした。でもスクールに通っている部員も、学校で活動している部員も、東高水泳部としての活動を盛り上げようと努力してくれました。個人競技でありながらも部全体の団結力を高めることができました。三年最後の大会は、原発の影響で満足に練習することもできず、くやしい結果に終わってしまいました。三年間の部活動で得たものが多かった。今、二三年生は、プールも使えず大変だと思いますが、今できることを精一杯頑張つてほしいと思います。(笠 咲樹)

### ハンドボール部

三十期ハンドボール部は「初心者軍団」である。にも関わらず、皆上達が早くとも初心者とは思えないほど上まってきた。新人戦では四強に残ることができた。最終的な結果は不甲斐無く終わってしまったが、チームとしては最高だった。と今思う。夏は暑い中で二部練習。冬場は寒い中でトレーニンング。遠征や練習試合もたくさん行った。つらいときも嬉しいときも側に

### 男子バレーボール部

一年生の春、バレー部に入部した。喜びを分かち合う仲間がいたからこそ、ここまでやってこれたのではないだろうか。技術面はもろろんだが、その他の面でも学ぶことが多かった。先輩達には何を伝えられたか分からないが、仲間を大切に頑張つてほしい。そして何よりも素晴らしい経験をさせて頂いた顧問の先生方にも感謝をしたい。皆さん、本当にありがとうございました。次は受験。部員全員、第一志望校合格目指します!(秋葉 亮太)

### 女子バレーボール部

私たち女子バレー部は新チームになった時、東北地区でベスト3、県大会でベスト8という目標をたてました。しかし、新人戦では地区大会でも県大会

### 卓球部

自分がこの三年間卓球部をやりに続けてきて感じたのは、継続していく事の大切さです。この三年間、楽しい事や苦しい事が数え切れない程たくさんありましたが、それでも時折辞めたい事や大会などという気が持ちはうやむやになりました。しかし、部活を引退してからは勉強の日々になりましたが、今の所止めたいと思つた事はありません。年間の経験が、自信と部活での三年間の経験が、自信と継続する事の慣れとなって自分を後押ししているのではないかと思うようになりました。そして、今になつてあの時辞めなくてよかった。また、自分がもう一つ感じたのは、達成感です。幾度かのいざこざがありました。最後に満たされてすっきりして終えられたので、受験もこんな風に後ぐされなくすっきりと終えられ

(梅津 杏奈)

### ソフトボール部

最近、自分がソフトボール部に入部するのは運命だったのか、そう思う時があります。新入生の時、父の影響もあり、ソフトボール部に入部することに悩みはありませんでした。人数の関係もあって一年生から公式戦に出場した私ですが、二年生の時はチームに迷惑をかけた日々が続きまして。そんな私にチームメートは気軽に接してくれました。

迎えた最終学年、私は主将として、また、一番打者としてチームを引っ張りました。全国大会には進めませんでした。三年間を過ごすことができました。

私は、ソフトボールを通じて「人と人のつながり」を強く感じました。御指導してくださった先生方、チームメートはもちろん他校のソフトボール部の選手達。私は、彼らの存在があったからこそ今の私があると思います。

ソフトボールを通して彼らに出逢うことはやはり運命だったのかもしれないですね。(安達 健人)

### 柔道部

勉強に部活にはげんだ二年と少し、思うことは色々あるにしても、今まで過ごしてきたそれはほぼ、部活動が中心であったと思います。

くまさんや力士さんみたいなでかい人や自分よりおそく強いであろう人達と戦ってきた(すこ)きて、僕も少しは強くなれたかなと思うけど、やはり内容(な)かみは僕のままでした。

そうは言っても、県大会終了後の部長の引き継ぎの際には、(部員は少ないのだけれども)歴史を感じるのと共にこれから続くであろう我が柔道部に思いをはせるのであります。

後輩のみな様にはどうかドMと言われても練習に本気で臨んでほしいと願います。そして、片平先生が十年連続で行という記録を伸ばしてほしいと思います。終わりに赤ベンが無くなって初めて赤ベンの大切さに気がつくように部活も終えて初めてその生活における比重の大きさに気が付くのであります。(阿部 裕樹)

### 男子バドミントン部

バドミントンというスポーツ、地味で目立ちません。マイナースポーツなのに意外とお金がかかります。ユニフォームやシューズなどは一回買えば終わりですが、消耗品が多いため。ガット、グリップは定期的に交換します。そして一番お金がかかるのがシャトルです。部費だけでは足りないの、自分で別にシャトルを買っていきます。一日一個は使うので、約二週間一本消費します。というところで、羽の折れないシャトルを作って欲しいと言いたかったです。

さて、三年間を振り返ってみると一年の頃の部活が一番楽しかったです。一年の頃は体育館に入れなかったで、走る、筋トレ、素振り部活終了後に体育館に入れて少しシャトルを打てる。それが日曜の部活終了後に体育館に入れて少しシャトルを打てる。その時間がとても楽しかったです。先輩が引退したら体育館に入るのが当たり前になり、シャトルを打つ喜びを忘れていました。最後に、バドミントンとバドミントンは違いますよ。(齋藤 涼)

### 女子バドミントン部

思い返せば、どのくらいバドに夢中になってただろう。どのくらいみんなと一緒にいただろう。どのくらい笑い笑ってただろう。高校生活がこんなにもバドで染まるは思ってたにないな。コートに十二人、それは他

の学校と比べても、練習をするのに良い環境とは言いがたかった。でも、毎日私達をサポーターしてくれた富良野先生、信郎先生、そして先輩方、可愛い後輩たち、そしてどんな時も気付け集まってくれて、この三年間の中で一番長く過ごした三年生。一人の存在は私にとって何にも変えられない大切な宝物。みんなとバドをしてなかったら、こんな楽しい高校生活はなかっただろう。バドを選んで本当に良かった。かけがえのない仲間に出会えたこと、私は幸せ以外何も無い。そして、この出会いをくれたバドに、ありがとう。(佐藤 聖夏)

### 女子テニス部

私は、部活動で色々な事を経験しましたが、中でも、全国大会に出場した事は、忘れる事のできないものとなりました。全国大会は、震災の後ということもあり、出場辞退の可能性もありましたが、梅宮先生の懸命の交通手段などの手配により無事出場することができ、選手一同感謝しました。しかし、東北代表としての責任感や練習不足による不安など、やはり震災前とは違いかなりの緊張感がありました。試合は、完敗でしたが自分達は最後まで戦い切ったと誇りを持って言える内容でした。試合後は、相手校の選手の応援メッセージの書かれたジャージをもらい、特別な思いを背負って出場した我々となり、それはかけがえのない物となりました。

部活に入部してから引退まであっという間に時間は過ぎてしまいました。部活で得た経験は今後にも必ず生きてくると信じ、勉強に励みたいと思います。(荒川 皓哉)

### 女子テニス部

今、改めて部活動での活動を思い返してみると「達成感」と

いう三文字が頭に浮かんできます。テニス部は学年関係なく仲が良く、とても楽しい部活でした。一方で、毎日の厳しい練習と、毎週のようにある遠征や大会で部活が苦になることもしばしばありました。しかし、その度に部員同士支え合い、または自分の負けん気に背中を押されながら、必死になって練習を重ねてきました。その結果が、団体戦で相手がジュニア出身のメンバーの中での全国大会出場、県では常に上位入賞という結果が残せたのだと思います。

しかし、このような活躍は自分たちだけではして来れなかったのも事実です。いくら実力を付けても、家族や先生方のサポートがなければあんなに必死に取り組むことも、大会等に参加することもできませんでした。インハイ出場という形で恩返しはできませんでしたが、今後の活躍で少しずつ返していきたいと思えます。今までありがとうございました。(菅野 菜々)

### サッカー部

福島東高校サッカー部の一員として活動したことで学んだことは計り知れません。周りの人達への感謝の気持ちを持ちつつとやサッカー以外での私生活の大切さなど本当に多くのことを学びました。一番は、やはり仲間の大切さです。十月二十九日の準々決勝で負けてしまい、高校サッカーの幕を閉じました。目標に届かず悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし、ここまで勝ち上がったこと、この仲間達と頑張ってきたからであり、悔いは全くありませんでした。みんなで選手権までサッカーを続けて本当によかったと思っています。

最後になりましたが、あの試合に足を運んで応援して下さいました保護者、先生方、生徒のみなさまには本当に感謝しています。この場を借りてお礼申し上げます。

### 男子バスケットボール部

新チームになり、最初の大会で東陵高校を相手に東高らしさを発揮し、優勝しました。その後の練習では、互いに言い合い、悪い所を改善できるように励みし合い努力しました。時に

### 野球部

七月二十一日、僕は野球部を引退しました。負けた時、涙と一緒に思い出したものは、たくさん思い出したものでした。一年の頃、印象深かったことは、秋の東北選手権で(一年生だけで)最高の雰囲気の中で公式戦初勝利できたことでした。二年の夏は、十三年ぶりのベスト8という成績を残し、東高の歴史に、新たな一ページを書き加えることができました。そんな周囲の期待があるなか、僕たちの新チームが始まり、多くの悩み、不安がありました。秋も県ベスト8になることができませんでした。しかし、東北大会に出場できず、とても悔いの残る大会にもなりませんでした。そして、OFFシーズンが終る頃、未曾有の大震災を経験することになりました。桜梅戦や春の大会の中止は、相当ショックでしたが、夏へ向け、気持ち一つにすることができました。

個性が豊かすぎると三十期、どんなに練習も、夜遅くまで残った自主練習も、この仲間とでなければ絶対できません。夏は、後期の一回戦で負けました。仲間に会えて本当に良かったです。今までありがとうございました。

最後に、福島東高野球部、最高!! (渡辺 友樹)

### 男子バスケットボール部

新チームになり、最初の大会で東陵高校を相手に東高らしさを発揮し、優勝しました。その後の練習では、互いに言い合い、悪い所を改善できるように励みし合い努力しました。時に

最後に、福島東高野球部、最高!! (渡辺 友樹)

### 男子バスケットボール部

新チームになり、最初の大会で東陵高校を相手に東高らしさを発揮し、優勝しました。その後の練習では、互いに言い合い、悪い所を改善できるように励みし合い努力しました。時に

最後に、福島東高野球部、最高!! (渡辺 友樹)

最後に、福島東高野球部、最高!! (渡辺 友樹)

すれ違いも生じ、うまくいかなかった事もあったが、乗り越えることで、進歩できた。

新人戦では、県大会一回戦で田村高校に負けた。だが、東高らしさが見られ以前とは明らかに違っていた。それからは今まで以上に意識を高く練習に取り組みることができた。

最後の大会、県北大会ではベスト4、県大会ではベスト8になった。特に最後の試合となった田村高校との試合は決して忘れることのない試合になった。十七点差で後半を迎えたが、チーム一丸となり、死守の信念で戦に臨むことで、遂に逆転した。最終的には負けてしまったが、今までで、最高の試合だった。

(森藤 章)

### 女子バスケットボール部

一年のときから毎日必死に部活に取り組んできたけれど、先輩が引退して自分たちの代になると初めて感じるものが増え、その度に仲間や先生方から多くのことを学びました。

辛い練習は逃げ出したかったです。しかし、周りの仲間も同じ気持ちだと思つて頑張れたし、時には仲間の頑張りや刺激される気が出たりもしました。遠征や合宿では衣食住を共にしました。こうやって毎日一緒に頑張ってきた仲間と目標の結果を残すことはできなかったけれど、チームが一つになって試合ができたときは本当に嬉しかったです。また、常に自分たちに目を向け成長させてくれた先生方にも感謝したいと思います。

三年間おもいっきりやっただからこそ得られた多くの経験を自分たちの自信に変えて、これから目の前のことを一生懸命頑張っていくたいです。(大槻 梨奈)

### ダンス部

ダンス部で過ごした日々は、本当に充実したものでした。こ

う思えるのは、良い仲間に出会ったからだと思えます。楽しいことも、苦しいことも、悔しい思いも一緒に経験しました。私が部長として間違つた方向に進んだ時は、正してくれました。そしてみんなダンス部が好きで、毎日一生懸命でした。

そんな仲間達と迎えた高校最後のライヴは大成を収めることになりました。震災の影響で計画に大きなズレが生じる中でも、みんな着実に自分のすべきことをこなしていききました。結果もより強まっていきました。部員の誰一人が欠けてもライヴの成功はなかったと思えます。ダンス部の仲間と、その仲間と過ごした時間は一生大切にしたい宝物です。

今の三年生とは、本当に同じ世代で活動できてよかったと思っています。後輩にも恵まれました。頼りない部長についてきてくれた後輩、支えてくれた三年生には本当に感謝しています。

ありがとう！(神野 愛)

### 合唱部

振り返ってみると、あつという間の二年半でした。中学生の頃所属していた運動部とは一転、何か新しいことに挑戦してみたいという思いで合唱部に入部しました。初めての経験に戸惑うことはかりでしたが、私がこうして部長という役割をやり遂げることができたのも、いつも親身になって悩みを聞いて下さった星先生の存在、そして、時にはぶつかり合いながらも共に支え合ってきた大切な仲間の存在があったからです。その仲間と共に、受験への焦りや曲の完成度に対する不安の中挑んだ東北大会では、二年連続となる金賞を受賞することができました。そこには二年半部活を続けてきたことへの達成感や、全国大会出場を逃した悔いの念がありました。来年こそ、東高校の門の前に「合唱部全国大会出場

### 科学部

僕たち科学部は、三十期生の十二人で活動して一期生が。去年は残念ながら三十一期生が一人も入部せず、休部の心配もしていました。今年も八人も入部してくれたので休部の危機は免れ、ひと安心しました。

科学部の部員は、個性的でマニアックな人たちが、一緒にいて、とても楽しかったです。その反面、普段はあまりまとまりがありませんでした。しかし、毎年夏に行く河川の水質調査、生徒理科発表会の準備では一致団結して、満足のいく発表ができたと思います。やる時はやる部です。

また、今年も、原発事故があつたということで、先生から機械を借りて校地内の放射線測定を行いました。あまり線量は高くなかつたことが分かつたので良かったと思います。

僕たちは、科学部で充実した日々を送ることができました。本当に楽しかったです。顧問の清水先生にはたくさん協力をしていただき、ありがとうございます。(松浦 泰祐)

### 英語部

私がこの英語部に入った時、ここはまだ英語同好会でした。少ない部員に少ない活動時間、部費もない所でした。そんな中、私たちは楽しみなながらも真剣に各々の英会話能力を上げてきました。また二年生になってからは、初めての研修旅行、ALTの先生の交代、クリスマスパティーに調理実習など様々な行事を通して、他国の文化を学びました。そんな私たちの活動が

認められたのか三年の春、念願の部に昇格できるようになりました。英語同好会は英語部に生まれ変わり、二年生への良いバトンパスができました。

私がこの英語部で過ごした約二年間は、活動時間がそんなにはありませんでしたが、その分中身がつまった大変充実した日々でした。卒業してからは、これまでの思い出を胸に、より国際的に生きていきたいと思えます。

(樺山 緑)

### 書道部

私が、書道部に入部した頃、同好会から部になったばかりということもあり、部員が少なく、勧誘からスタートした。その成果もあり、新入部員が十名に増えたものの、二年生が引退したこと、先輩という存在を失い、私たちは、ほとんど暗中模索の状態だった。その中で、私たちは、橋本先生の指導のもと、様々な展示会への出品や講集会への参加、研修旅行などの活動をしてきた。また、私たちは書道甲子園に感動し、自分たちも、メッセージを伝えることができる書道を目指したいと思ひ、書道パフォーマンスを新たに始めた。書道パフォーマンスは、何を伝えたいのかを考え、文や文字の大きさ、配色、曲、動きなど、苦労しながらも、すべて自分たちで決めた。今年の文化祭での、パフォーマンスのテーマは、「震災を乗り越え、未来に向かつて歩き出そう」だった。が、その思いは、みなさんに届いたのだろうか。(紺野 杏奈)

### 吹奏楽部

昨年も残念ながら東北大会へは行けず、その夢は二〇二一年の大会であるアンコンでは、どのチームも悔いの残る演奏、結果に終わる、定期演奏会の成功と東北大会への出場、という新

たな目標に向けて練習に励んでいた。

そんな中起きた東日本大震災、ホールの損傷がひどいために演奏会は中止された。演奏の機会を失い、かなりショックだった。しかし、合唱部のみなさんとの協力により、合同でチャリティーコンサートを開くことができた。改めて、合唱部のみなさん、本当にありがとうございます。最大の目標であるコンクール。東北大会はなんと通過。ユラックス熱海で行われる県大会へと出場。県大会当日は、僕のミスによるアクシデントやトラブルがあつたが、力を出し切れた人も多く、良かったと思う。結果は金賞。しかし、東北大会へは行けず。来年こそ東北大会以上に進んでほしいと思つた。

(佐久間悠太)

### 応援バスバンド部

応援バスバンド部の主な活動は野球部の応援です。夏の炎天下で楽器を吹き続けることは想像以上に大変ですが、その分やりがいも大きく、野球部の勝利が何よりも嬉しく感じます。私が入部した当初は、応援団と連携して応援を行っていましたが、しかし、二年の春に応援団がなくなり、夏には先輩が引退されたため、部員が四人になりました。今までは違う状況に戸惑いながらも、対応できるように知恵を出し合つて日々の練習に励みました。三月の震災で思つたように活動ができず、今年も応援団が再建され、バスバンド部にも九人の新入部員が加わり、活気ある応援ができました。

三年間バスバンド部に所属し、活動した中でたくさんの方とを学ぶことができました。後輩達には、東高を盛り上げられるような応援を目指して、様々なことに挑戦して欲しいと思ひます。(丹治友喜)

# 福島東高校の先輩に学ぶ

日本画の新世代を独走する俊英・齋 正機は一九六六年生まれ。明るく色彩と染め上げたような画肌から滲み出るポエジーは童画風の装いをとり、一見素朴ですが実は多彩な造形実験に富んでいます。

二十一世紀に相応しい将来性十分な画家の、全国の美術館では初めてとなる意欲的な新作個展を開催しました。

## 「原点は東高」

画家 齋 正機(二期生)

「齋先生、来年のうちのカレンダーのために会津の鶴ヶ城を描いてみませんか?」昨年四月下旬、そんな話が持ち上がった。前の年も、銀行さんのカレンダーの原画を描いたのだが、大震災の事もあり再びカレンダーの原画を描く機会はもう無いと思っていた。

私は齋正機 サイマサキ 本名齋藤正機、東高一期生である。二十歳で福島を離れ現在名古屋に住んでいる。そのため直接地震の被害を受けていない。福島出身なのに何の力にもなれない自分の「後ろめたさ」を強烈に感じていた頃の作品依頼だった。それ由に(少しでも自分の描



齋 正機(本名 齋藤正機)  
Masaki Sai 1966~

福島県生まれ。東京芸術大学日本画専攻卒業後、同大学院修了。通常日本画家に分けられるが、洋画の登壇全体の逸材として期待されている。

機関士だった父の思い出である汽車や、郷愁を感じさせる山里などを主なモチーフに、詩情溢れる作品を描く。

絵で福島の人々のためになれば(。...)と思いき、すぐに承諾。しかし描くにつれて徐々に今回の絵の意味の重さを感じてきた。(このカレンダーのための絵は人々の心を癒さねばいけない。)といううなる心の声がかたまる。いろいろな制作の依頼を経験したつもりだったが、こんな難しく感じた仕事はなかった。思い悩んで描いていた毎日に高校時代に言われた美術の先生の「正機の絵は下手だけど詩がある。」という言葉が蘇った。

絵画の世界に入ったのは東高二年生当時の美術の先生、小原久男先生との出会いである。それまで絵を描く事は好きで美術部に入ったものの上手な人達がたくさんいて劣等感が募っていたのだが、「正機は詩的」という先生のこの言葉で私の絵画への新しい扉が開いたのだった。

その時から朝、放課後に絵に没頭する日々がスタート、高校三年には担任の齋藤和也先生の応援も得て美術の専門の道に行く決心をした。

ただ要領の悪い私は大学に合格するのにも四浪、プロとして絵だけには専念できるような二年以上の月日がかかった。その間も小原先生や和也先生ははじめ先生達に応援して



いたたいてしてもありがたかった。昨年、箱根成川美術館にて初めての美術館での個展をする事ができ、全国のたくさんの人々の反響を得る事ができた。そして大震災後、絵画に求められていた事に(当たり前の日常を大切にしようとする人々の心の具現化)と知ることとなる。

「そつだ。自分自身というより、人のため、観て下さる人達のために絵を描こう。」と本気でそう思うようになった。

福島は今、すぐには解決できない問題と対峙している。その張り詰めた心に、東高時代に見い出された心に、「詩心を持つ絵で(少しでも福島の人々の心を軽くできたなら)と祈り制作している。



「東高魂で福島に元気を!」  
(悲願のJFL昇格に向けて)  
代表取締役 鈴木 勇人(九期生)  
副代表 齋正機(二期生)

地元福島からJリーグを目指して活動しているサッカークラブ「福島ユナイテッドFC」の代表である鈴木勇人さん(九期生)は設計事務所の代表を務めていながら、福島を元気にしたい一心で震災後に代表を引き受け、3名の東高サッカー部OBの選手達とともに、新しい歴史をつくるようにしています。

まさしく文武両道の精神を実践しているOBであり、是非とも皆さんで応援していきたいものです。

と「福島の子供達に夢や希望を見出してもらいたい」と強く思い、地元企業の経営者有志で運営会社を設立し、チームを引き受けました。その矢先にあの悪夢がやってきたのです。

本来であれば昨シーズンは飛躍の年になるはずでした。三月十一日の東日本大震災や福島第一原子力発電所事故の影響により一時は活動休止もありえる状況に陥り、スポンサーの取止めや選手の退団が相次ぎました。

そんななか、皆様のご支援により活動が継続でき、クラブ史上初となる東北社会人リーグ一部位優勝を果たすことができたものの、全国地域サッカーリーグ決勝大会では二年連続1次ラウンドでの敗退により、JFL昇格を果たすことができませんでした。

当初の目標を達成することが出来なかつただけでなく、皆様の期待に答えられなかつたことに対して大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかしながら、この一年でチームは大きく成長し、選手自身が福島でサッカーをする意義を見出しました。天皇杯二回戦でJ1・ジュビロ磐田戦では、相手サポーターから被災地福島への熱いコールを受けるなど、クラブや選手たちにとって、かけがえのない経験をさせていただきました。これらを生かしながら、地元サッカークラブだからこそできる復旧支援活動にも全力で取り組んでまいります。

現在、下部組織のアカデミー選手(U-15、U-12、U-10)やスクール生の子供たちは、放射線の影響により体育館等屋内での活動しかできず、全く先行きが見えない現状が続いており子供たちは現状や希望を見出せない状況にあります。

二〇一二年シーズンは、福島復興元年と捉え、地域に必要とされるクラブづくりを目指し、放射線の影響を昨年開催できなかった福島市をはじめとする福

島県内でのホームゲーム開催や数多くのホームタウン活動を中心に、地域振興や社会貢献活動を進めてまいります。

その一つとして多くの企業・個人様の賛同・参画を期待し、CSRユナイテッドを立ち上げました。福島ユナイテッドFCをプラットフォームとしてスポーツにおけるCSR(企業社会貢献)の質と量の向上を皆様とともに考えてまいります。

また、新年に開催した東北人魂を持つJ選手会とのサッカーフェスティバル運営等から県サッカー協会との協調や連携を深めながら、福島県のサッカーレベル向上と地元出身の選手が活躍できる環境を整えるべく新たなクラブづくりを進めます。

県内のスポーツファンの想いを背負い、福島復興とともに昨年果たすことができなかった悲願の「JFL昇格を達成し、福島県に元気を取り戻すためクラブ一丸となって努力してまいります。

現在、トップチームの選手には東高OBが三名在籍しています。FW・時崎聖(19期生)、DF阿部竜太(25期生)、そして新入団のDF大原卓文(23期生)です。彼らは「東高魂を胸に、今季必ずJFL(J3)に昇格し、地元福島を少しでも元気にしたい。自分達ががんばることで福島東高校をPRしたい。」と情熱いっっぱいで練習に取り組んでいます。

是非とも皆様のご支援と熱い声援を御願いたします。

福島ユナイテッドFCホームページ  
<http://fukushimaunited.com/>  
東高生ががんばれ!

と「福島の子供達に夢や希望を見出してもらいたい」と強く思い、地元企業の経営者有志で運営会社を設立し、チームを引き受けました。その矢先にあの悪夢がやってきたのです。

本来であれば昨シーズンは飛躍の年になるはずでした。三月十一日の東日本大震災や福島第一原子力発電所事故の影響により一時は活動休止もありえる状況に陥り、スポンサーの取止めや選手の退団が相次ぎました。

そんななか、皆様のご支援により活動が継続でき、クラブ史上初となる東北社会人リーグ一部位優勝を果たすことができたものの、全国地域サッカーリーグ決勝大会では二年連続1次ラウンドでの敗退により、JFL昇格を果たすことができませんでした。

当初の目標を達成することが出来なかつただけでなく、皆様の期待に答えられなかつたことに対して大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかしながら、この一年でチームは大きく成長し、選手自身が福島でサッカーをする意義を見出しました。天皇杯二回戦でJ1・ジュビロ磐田戦では、相手サポーターから被災地福島への熱いコールを受けるなど、クラブや選手たちにとって、かけがえのない経験をさせていただきました。これらを生かしながら、地元サッカークラブだからこそできる復旧支援活動にも全力で取り組んでまいります。

現在、下部組織のアカデミー選手(U-15、U-12、U-10)やスクール生の子供たちは、放射線の影響により体育館等屋内での活動しかできず、全く先行きが見えない現状が続いており子供たちは現状や希望を見出せない状況にあります。

二〇一二年シーズンは、福島復興元年と捉え、地域に必要とされるクラブづくりを目指し、放射線の影響を昨年開催できなかった福島市をはじめとする福



### 転任者の言葉

#### 夏の辞令

村上 英夫

学校全体のあらゆるシステムが立ち上がりまさにトップスピードで走り始めた時期に、途中からメンバーとして加わる事となりました。大地震と津波の被害は尽大で、福島県全体の教育行政をも大きく揺るがせた影響によるものとはいえ、目の前の生徒たちに不利益となるようなきごちなきは一切あつてはならないという思いで赴任しました。

それでも、学校組織全体のアクティブでダイナミックな動きをフォロアップするだけで精一杯で、年度も半分以上過ぎようという時期になつても、なかなか組織に貢献できない歯がゆさを感じます。しかし、それこそアクティブでパワフルな生徒たちから元氣をもらい、日々、エネルギーと勇気を充てんされつつ、ようやく前後左右の視界が開けて、やっく学校の戦力になれそうなきがします。どうぞ宜しくお願いいたします。

### 編集後記

今年度は三月十一日の大震災・原発事故により色々なことを考えさせられる一年でした。

一つは、自然の前ではあまりにも無力であり、人の奮った認識を改めさせられたことです。今起こったことはいままでの経験したことのないほどの大地震といえ、予想は完全に外れ、大惨事につながりました。特に原子力発電所の地震対策は甘かったと言わざるを得ないでしょう。

我々は原子力の危険を世界中のどの国よりも細心の注意を払い、このよつな大地震に備えなければならなかつたはずですが。唯一の原子力爆弾の被爆国として。にもかかわらず、このような事態になつてしまつたのです。我々は利便性などの科学の恩恵を受けるために、本当に慎重に考えなければならぬ安全面に対して目をむつてしまつていていたのかも知れません。誰がというわけではなく、国民の一人一人が心のどこかにそつした考えがあつたのだと

思います。科学と自然の共存は以前から人間の普通の命題のように議論されています。今さら原始時代の生活に戻ることはできません。かといつて、利便性を追い求めて自然を無視するわけにもいきませんが。答えは出ないのかもしれないが、一人一人がもう一度、決して他人事ではなく、今回の大震災の被災当事者として考えるきつかけとなればと考えます。そつすれば、悲しみしか残らないよつな今回の事も明るい未来へ向けての第一歩となるかもしれない。

そして、もう一つ考えさせられたことは、前述した人の無力さと同時に人の力の偉大さでしょう。神戸・淡路大震災の時もそうでしたが、日本だけではなく世界中の人々からの善意の力で。ボランティアや救援物資、そして暖かいメッセージ。一人一人の力は微力かもしれませんが、それが一つになつた時のエネルギーの膨大さは計りしれず、被災地の復旧に大きな役割を果たしてくれました。感謝してもきれないほどです。お金や物だけではなく、

人々のアイディアや心のこもつた言葉に勇気づけられました。被災者は物だけが揃えば以前の通りの生活に戻れるわけではありませんが。永遠に失われて、二度とこえつて来ないものもあります。物だけでその穴を埋めることはできません。その心の穴を埋めてくれるのは、人の温かな心でしょうか。それを埋めようとして世界中の人々の温かな心が被災地に集められたよつなきがします。この力こそ人の力の偉大さでしょう。

こうして、我々は人の力に疑問を感じ、同時に人の力に感動してまた前を向いて歩いて行くのです。私は人のその矛盾した力にこそ魅力があると思ひます。それが人であると思ひます。何の失敗もしなく完璧な人より、間違ひや失敗をして傷つき倒れながらも立ち上がり前を向いて歩みを止めない、そんな魅力ある人に福島東高校の生徒たちにはなつてほしいと思ひます。最後に震災により犠牲になつた多くの魂に哀悼の意を表して編集後記とします。

(朝倉 昭博)

### 平成23年度 転出者

| 職名    | 氏名    | 転出先     |
|-------|-------|---------|
| 校長    | 平岩典男  | 会津高校    |
| 教諭    | 阿部健一郎 | 退職      |
| 教諭    | 根津志功  | 福島明成高校  |
| 教諭    | 齋藤毅   | 福島北高校   |
| 教諭    | 樋口文子  | 大笹生養護学校 |
| 教諭    | 佐久間聡  | 保原高校    |
| 教諭    | 矢澤和美  | 保原高校    |
| 教諭    | 清水早苗  | 石川高校    |
| 実習教諭  | 片桐麗子  | 退職      |
| 常勤講師  | 久保田慎一 | 退職      |
| 常勤講師  | 齋藤直人  | 退職      |
| 常勤講師  | 渡部明美  | 退職      |
| 常勤講師  | 池田政人  | 退職      |
| 常勤講師  | 山口尚之  | 退職      |
| 常勤講師  | 新妻尉善男 | 退職      |
| 月手当講師 | 渡辺康一  | 退職      |
| 時間講師  | 飯沼昭宣  | 退職      |
| 時間講師  | 原田寿江子 | 退職      |
| 事務長   | 金澤治   | 退職      |
| 主任用務員 | 菅野勝彦  | 川俣高校    |

### 平成23年度 転入者

| 職名    | 氏名     | 前勤務先     | 教科   |
|-------|--------|----------|------|
| 校長    | 田村秀夫   | 遠野高校     |      |
| 教諭    | 草野智教   | 新採用      | 地歴公民 |
| 教諭    | 村上英夫   | 橘高校      | 英語   |
| 教諭    | 松本仁子   | 橘高校      | 理科   |
| 教諭    | 洪川恭子   | 安達高校     | 英語   |
| 教諭    | 柳橋幸裕   | 教育センター   | 理科   |
| 教諭    | クームズ茂子 | 塙工業高校    | 英語   |
| 教諭    | 高梨卓哉   | いわき翠の杜高校 | 数学   |
| 実習教諭  | 三浦和子   | 保原高校     |      |
| 常勤講師  | 久保田慎一  | 継        | 地歴公民 |
| 常勤講師  | 川崎彰子   |          | 理科   |
| 常勤講師  | 池田政人   | 継        | 数学   |
| 常勤講師  | 鈴木博幸   |          | 地歴公民 |
| 常勤講師  | 志村龍也   |          | 数学   |
| 月手当講師 | 佐藤恵治   |          | 英語   |
| 時間講師  | 渡邊憲一   |          | 理科   |
| 時間講師  | 須田美和子  |          | 保健体育 |
| 事務長   | 飯野俊    | 郡山北工業高校  |      |
| 主任用務員 | 吉成啓    | 福島商業高校   |      |

### 平成23年度 教育実習生 (同窓生のみ)

| 氏名   | 期生  | 氏名    | 期生  |
|------|-----|-------|-----|
| 朽木理美 | 26期 | 小阪周諭  | 27期 |
| 橋本宏貴 | 26期 | 齋藤有季  | 26期 |
| 矢吹龍介 | 25期 | 中澤和也  | 27期 |
| 阿部翔一 | 26期 | 高田沙保里 | 27期 |
| 菅野由香 | 26期 | 安齋祐紀  | 25期 |
| 佐藤越萌 | 26期 | 大河内琢磨 | 26期 |
| 戸田進一 | 26期 | 藤岡友恵  | 26期 |
| 大原優  | 26期 |       |     |

### 注意です!

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。

東高の電話番号は 024-531-1551 です。